

ポストコンシューマカレット利用のガイドライン【第1版】（案）

板硝子協会会員各社のポストコンシューマカレットを利用するにあたってのガイドラインを定める

1. ポストコンシューマカレットの定義

プレコンシューマカレット、ポストコンシューマカレットの定義はISO14021 7.8.1.項による（JIS14021:2000 7.8.1項）

※ なお、以降プレコンシューマカレットを「**プレカレット**」、ポストコンシューマカレットを「**ポストカレット**」と表記する

2. カレットリサイクル率の算定

板ガラスカレットのリサイクル率の実績は、下記算定式により算出される『**カレットリサイクル率**』により設定する

$$\text{カレットリサイクル率} = \frac{\text{「プレカレット + ポストカレット」}}{\text{バージン材料 * 板協ガラス化率（0.817） + 内部循環カレット + プレカレット + ポストカレット}}$$

※ 1 生産状況（歩留まり）の影響を排除するため、内部循環カレットは「カレット」にカウントしない

※ 2 詳細は「板硝子協会板ガラスリサイクル率定義」Ver 3. 2024/10/18 による

3. カレットリサイクル率のKPI

2024年12月2日開催の板ガラスリサイクル・再資源化部会において承認された

「板ガラスカレットリサイクルKPIの設定」に基づき下表のとおり設定する

年度	ポストカレット リサイクル量	カレット リサイクル率	想定CO2 削減量
	万t/年		万t/年
2030年	9.7	33%	2.9
2035年	17.8	40%	5.3
2040年	25.9	45%	7.8

〈参考値〉

2023年のカレットリサイクル率は25%

※ 1 KPIはポストカレット回収活動の進捗に応じて随時見直すこととする

※ 2 カレットリサイクル率のKPIは

- ① 板ガラス産業の2050年カーボンニュートラルへのビジョン2024
- ② 産構審・経団連「カーボンニュートラル行動計画」
- ③ サークュラー・パートナーズ活動のCEに関する定量目標
- ④ エコマーク認定基準

との整合性に配慮する必要がある

※ 3 カレットリサイクル率のKPI設定においては、発生するポストカレットのフロート槽窯への適合可能性とカスケードリサイクルの適合性を勘案し、設定する必要がある

4. 基準年

2024年度（4-3月）とする

5. カレットリサイクル率の集計

会員各社毎に上記 2. の分子と分母を板硝子協会総務部に報告し、総務部担当者が集計する。

数値データは専務理事が保管する

集計の頻度は、1回/年とし、毎年6月に実施する

6. ポストカレットの取り扱い

カレット業者において、『プレカレット』と『ポストカレット』を明確に区分して取り扱う

納入は『プレカレット』と『ポストカレット』を明確に区分し、納入量も別々に報告する

7. ガイドラインの改定、追加

本ガイドラインはポストカレット回収の進捗により必要が生じた場合は随時改訂追加を実施する

【履歴】

2024/12/2 第1版 板ガラスリサイクル・再資源化部会にて承認 制定